

2025. 2. 23 (日) 使徒22:12～

22:12 すると、律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い、アナニアという人が、

22:13 私のところに来て、そばに立ち、『兄弟サウロ、再び見えるようになりなさい』と言いました。するとそのとき、私はその人が見えるようになりました。

22:14 彼はこう言いました。『私たちの父祖の神は、あなたをお選びになりました。あなたがみこころを知り、義なる方を見、その方の口から御声を聞くようになるためです。

22:15 あなたはその方のために、すべての人に対して、見聞きしたことを証しする証人となるのです。

22:16 さあ、何をためらっているのですか。立ちなさい。その方の名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』

22:17 それから私がエルサレムに帰り、宮で祈っていたとき、私は夢心地になりました。

22:18 そして主を見たのです。主は私にこう語られました。『早く、急いでエルサレムを離れなさい。わたしについてあなたがする証しを、人々は受け入れないから。』

22:19 そこで私は答えました。『主よ。この私が会堂ごとに、あなたを信じる者たちを牢に入れたり、むちで打ったりしていたのを、彼らは知っています。

22:20 また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私自身もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの上着の番をしていたのです。』

22:21 すると主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす』と言われました。』

<説教>

使徒パウロは、イエス・キリストを信じないユダヤ人たちと彼らに扇動されたユダヤ人たちによって捕らえられました。更に駆けつけたローマの千人隊長によって身柄を確保されました。そして千人隊長の許可を受けてパウロは、「殺してしまえ」と叫んでいるユダヤ人民衆に向かってヘブル語で弁明を始めました。その続きです。

自分はユダヤ人として、先祖の律法について厳しく教育を受け、民衆と同じく神に対して熱心な者だったこと(3)、それゆえにキリスト者たちを皆縛り、投獄し、死にまでも至らせ、更にキリスト者を捕らえてエルサレムに引いて来て処罰するためにダマスコに向かっていたこと(4-5)をパウロは語りました。彼はイエス・キリストを信じていなかったかつての自分の神に対する熱心が間違っただけのこと、そんな〈自分の罪〉(16)がいかに大きかったかを言い表しました。そのことは、そのときパウロを殺そうとしていたユダヤ人たちもかつてのパウロと同じ罪を犯しているということを示すものであり、そのことに気が付いてほしいとパウロは考えていたのではないのでしょうか。

そして次にイエス・キリストはそんな自分を見捨てず、まず自分を地に打ち倒し、語りかけ、ご自身を現してくださったことをパウロは語りました(6-10)。キリスト者を迫害していたパウロのことをイエスは「わたしを迫害している」と言われました(7-8)。イエスがご自分とキリスト者たちを同一視してくださっているとは今日の私たちキリスト者にとっても大きな慰めであり、励ましです。

さてそうやって地に倒され、「主よ、私はどうしたらよいでしょうか」と尋ねたパウロに、イエスは「起き上がって、ダマスコに行きなさい。あなたが行うように定められているすべてのことが、そこであなたに告げられる」と言われました(10)。パウロが「ダマスコに行く」そのことは変わりませんでした。しかし、イエスを信じていなかったパウロから出だ最初の目的は全く否定され、パウロが新たに行うように主がお定めになっていることがあることが示されました。それをパウロに告げるために主はダマスコの〈アナニアという人〉をお用いになりました(12)。彼は〈律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い〉人だったとパウロは言います。そんな人の言ったこととしたことならあなたがたも信用できるはずだとパウロはユダヤ人たちに言っているようですが、さて彼らはどでしょうか。

9章を見ると、パウロ(当時はサウロ)を訪ねて行くようにイエスから命じられたアナニアは、最初は迫害者パウロの所には行きたくありませんでしたが、イエスから「行きなさい」と改めて命じられたので従って行きました。そして「兄弟サウロ。あなたが来る途中であなたに現れた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」(9:17)と言いました。

本日の箇所ではパウロが自分の口で語ったところ(22:13)ではアナニアの言葉は一部省略されていますが、逆に続く14-16節では9章には記されなかったアナニアの言葉をパウロは語りました。アナニアは、先にダマスコに向かう道でパウロに現れ、パウロを地に倒し、語りかけ、起き上がらせた主イエスこそ、〈私たちの父祖の神〉が約束なさっていた〈義なる方〉、罪からの救い主キリストだと証しし告げました。神がパウロを特別に選び、神のみこころを知るように、約束のキリスト〈義なる方〉を見させ、イエスの御声を聞くようにさせてくださったのだと告げました(14)。更に続けてアナニアは言いました。「あなたはその方のために、すべての人に対して、見聞きしたことを証しする証人となるのです。」(15)。神がパウロをお選びになり、イエスを見させ、その御声を聞かせたのは、パウロがイエスのために〈すべての人に対して、見聞きしたことを証しする証人となる〉ためだとも告げました。「あの方はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、わたしの選びの器です」と主がアナニアに言われたと9:15にありました。そしてアナニアは最後に「さあ、何をためらっているのですか。立ちなさい。その方の名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。」(16)とパウロに勧めました。そのアナニアの勧めに従い、パウロはバプテスマを受けました(9:18)。確かにアナニアの主に対する従順がなければパウロの信仰、悔い改めはありませんでした。そして今度はパウロがアナニアの言葉によって、自分の弁明を聞いているユダヤ人たち一人ひとりに「あなた」と呼びかけ、「殺してしまえ」と叫んでいたユダヤ人民衆も自分と同じようにイエスを、〈私たちの父祖の神〉が約束してくださっていた、罪からの救い主キリストと信じ、イエスの十字架の血によって自分の罪を洗い流すようにとパウロは語りかけたのです。

続けてパウロは再び主イエスが自分に現れ、語りかけてくださったことを証言しました(17-21)。このエルサレムでの出来事は、9章では26-30節に当たることかと思われまます。パウロは神殿で祈っていたときに主を見、主のみことばを聞いたと言いました(17-18)。パウロに反対していたユダヤ人たちが悪意を持って決めつけたような、パウロが神殿を汚している(21:28)ということは絶対にありませんでした。むしろパウロこそは神殿でも主

とお会いし、主のみことばをきちんと聞き取る人でした。逆にこのユダヤ人たちは神殿でいくら先祖の言い伝えの通りの立派な儀式をしても決して主を見ることなく、主のみことばを聞くことはなかったと言っているでしょう。

さてこのときパウロが見、御声を聞くことによって知らされた主のみこころは、「早く、急いでエルサレムを離れなさい。わたしについてあなたがする証しを、人々は受け入れないから。」ということでした。その主に対してパウロが答えました(19-20)。それによれば、そのときのパウロの思いは、「これほどイエスを信じないで、キリスト者たちを酷く迫害し、ステパノを始め、キリスト者たちを殺すことの前頭に立っていた自分が変えられてイエスの証人となったのだから、エルサレムのユダヤ人たちもそのことは知っているのだから、もう少しエルサレムで自分が彼らと〈語ったり論じたりして〉(9:29)いけば、彼らも主イエスについてのパウロの証しを受け入れて、考えを改めて、〈自分の罪〉(22:16)を認めてイエスを信じるようになるのではないのでしょうか」ということでした。しかし、主イエスのみこころは違いました。「早く、急いでエルサレムを離れなさい。わたしについてあなたがする証しを、人々は受け入れないから。」ということであり、「行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす」ということでした。もちろんパウロはその主のみこころに従いました。それはユダヤ人たちのパウロに対する殺意を知った兄弟たちに連れられてカイサリアに下り、タルソに行く、という形で実行されました(9:30)。

主がパウロのところにお遣わしになったアナニアのように、私たちもまだ主イエスを信じていない人々のところに主によって遣わされ、主を証しし、主のもとに導く者とさせていただきますと願います。また、自分自身が主イエスを日々見、イエスの口から御声を聞き、その御声に従い、イエスについての証しをする者とさせていただきますよう。